



女性と女の子：

メンタルヘルスを通じたエンパワーメント





私たちはこの研究に貴重な洞察、指導、専門知識を提供して下さった研究アドバイザーの皆様に、深く感謝と謝意を表します。

アルファ・デメラッサ：ライジング・タイド・キャピタル共同創設者兼CEO

ヘレン・ハーマン：医学博士、メルボルン大学オリゲンおよびユースメンタルヘルスセンター名誉教授

熊平美香：昭和女子大学キャリアカレッジ学院創設校長

ミシェル・ミルフォード・モース：国連基金ガールズ・アンド・ウーマン戦略担当バイスプレジデント、およびシア・ノワロジー(国際的なジェンダー平等、人権、性暴力の問題に関する活動家および専門家)、国連基金女の子と女性対策担当シニアディレクター

アンタ・ラジ：博士、タラニ・インスティテュートジェンダー平等担当エグゼクティブディレクター、公衆衛生学教授、およびテュレーン大学ナンシー・リース・ドルー寄付教授

シェカール・サクセーナ：医学博士、ハーバード大学ハーバード・T・H・チャン公衆衛生大学院 グローバル・メンタル・ヘルス実践教授

S・モナ・シン：イコリティー・ナウ グローバルエグゼクティブディレクター、およびウーマン・ムービング・ミオンス理事長

キャサリン・ティンズリー：博士、ジョージタウン大学 ラフニー経営学教授

ルレット・トゥリムチ：ナヤ・コンサルティング創設者兼CEO

また、女性のメンタルヘルスとエンパワーメントをグローバル規模で推進するための継続的な活動をサポートして頂いている、ケイト・スピード ニューヨークのソーシャルインパクト・カウンシルの関係者にも深く感謝と謝意を表します。

タラジ・P・ヘンソン：アカデミー賞ノミネート、ゴールデングローブ賞受賞女優、映画監督、ボリス・ローレンス・ヘンソン財団創設者

熊平 美香：昭和女子大学キャリアカレッジ学院創設校長

エリシャ・ロンドン：グローバル・メンタル・ヘルス連合創設者、プロスピラグローバルCEO兼創設者

ラサム・トーマス：ママグロ創設者、ママグロ財団共同創設者

ジャズ・ソートン：メンタルヘルス擁護者、国際講演者、映画監督、著者、ボイス・オブ・ホープ共同創設者

キャサリン・ティンズリー：博士、ワシントンD.C. ジョージタウン大学経営学ラフニー教授

ルレット・トゥリムチ：ナヤ・コンサルティング創設者兼CEO

ソフィア・ウィーリー：女優、歌手、ダンサー

女性と女の子： メンタルヘルスを通じたエンパワーメント

CONTENTS

要約	2
調査方法.....	3
ケイト・スピード ニューヨークからのメッセージ.....	5
ケーススタディー ：アビズィ コミュニティー ベネフィット コーポレーション(CBC).....	6
調査結果.....	9
今日の世界では、女性は、単に女性であるだけでより多くのストレスを経験している.....	9
メンタルヘルスは長きに亘って軽視され、十分な投資受けて、過小評価されてきた.....	11
しかしながら、女性のエンパワーメントの基盤はメンタルヘルスである.....	12
困難な状況下でも、メンタルヘルスの統合に取り組むジェンダー組織.....	15
メンタルヘルスプログラムの主たる目的 - 啓発と予防.....	17
ジェンダー平等とエンパワーメントを推進する人々への支援、さらに高まるその必要性.....	18
文化的に適切な方法で、メンタルヘルスを女性のエンパワーメント活動に統合した優良事例.....	19
進歩における最大の障壁は資金調達.....	20
ケーススタディー ：ライジング・タイド・キャピタル： はじまりは内部から.....	22
ケーススタディー ：ローワーイーストサイド・ガールズ・クラブ：スペース創り.....	24
結論と次へのステップ	26
クレジット・謝辞・参考文献	28
プロスピラグローバルについて	30

EXECUTIVE SUMMARY - 要約

過去数十年にわたり、世界各地で女性の平等とエンパワメントを推進する多くの進展が見られてきました。しかし、その道のりはまだ長く、現在の進捗率では、世界の女性と女の子を対象とする差別的な法律を廃止し、法的な保護のギャップを埋めて、ジェンダー平等を達成するには約300年近くかかると言われています¹。

この調査は、ケイト・スベード ニューヨークからの資金提供を受けてプロスピラグローバルが実施したもので、ジェンダー平等とエンパワメントの議題から大きく取り残されてしまっているが、必要性が増しており、また、この取り組みの進歩を加速させることができる分野、すなわちメンタルヘルスを考察しています。

メンタルヘルスとエンパワメントは、女性の人生において密接に関連していると指摘されていますが、その関係はこれまで十分に研究されておらず、また、世界の女性のエンパワメントコミュニティにおいてメンタルヘルスが優先されているかどうかほとんど知られていません。

この調査では、以下を通してこれらのギャップを埋めることを目的としています：

- 1 女性のエンパワメントにおいてメンタルヘルスが果たす基本的な役割と、それが現在どのように統合されているかを示す調査を紹介します。
- 2 すでに女性のエンパワメント活動にメンタルヘルスを組み込んでいる組織のケーススタディーを紹介することで、**実践的な事例と解決策**を共有します。



- 3 女性と女の子の生活を改善するために取り組んでいる世界中の組織に呼びかけ、彼らの取り組みの中にメンタルヘルスのサポートを**統合するよう促します**。

私たちは、この報告書が世界的なジェンダー平等の将来の進歩のためのより持続可能な基盤を築くことに役立つことを願っています。

また、この報告書が、女性と女の子の持続的なエンパワメントの実現のために、メンタルヘルスをサポートするより多くの行動を必要としていることを、あなたの組織、資金提供者、政策立案者に訴えるためのツールになることを願っています。

今日、女性は女性であるというだけで、より多くのストレスを経験。90%の調査対象者がそう感じています。

メンタルヘルスは女性のエンパワメントの基盤である。97%の調査対象者が、メンタルヘルスへの投資がエンパワメントの成果の持続可能性を高めることに同意しています。

十分な取り組みが行われていない。61%の調査対象者が、メンタルヘルスがジェンダー平等とエンパワメントの取り組みに十分に統合されていないことに同意しています。

資金は進歩の最大の障壁。82%のジェンダー組織がメンタルヘルスの取り組みのための資金提供を受け取っていない。それに関わらず、55%の組織は現在メンタルヘルスを統合しています。

組織は内部から始める必要がある。調査対象者も自分自身のメンタルヘルスのサポートを必要としています。女性のエンパワメントの提唱者や実践者は、燃え尽き症候群を経験する可能性が2倍高くなっています。

良好なメンタルヘルスは女性の権利です。メンタルヘルスへの投資はビジネス、社会、女性のエンパワメント活動にとって良いだけでなく、最も重要な要素として、女性にとって良いものです。女性のエンパワメントコミュニティの**96%**が、女性は良好なメンタルヘルスを有する権利があることに同意しています。

*本報告書では、女性という用語は、女性および女の子のあらゆるアイデンティティを指す。

RESEARCH METHODOLOGY - 調査方法論

これまでの調査では、女性の人生においてメンタルヘルスとエンパワメントは密接に関連していることが指摘されていますが、これに関する大規模な、もしくは綿密な研究や立証は行われてきませんでした。³

本調査は、学術的および実践的観点から、女性のメンタルヘルスとエンパワメントのつながりをより深く理解することを目的としています。調査方法は以下の通りです：

- 1 **女性のエンパワメントとメンタルヘルスの関連性に関する既存のエビデンスを検証する。**
女性エンパワメントの成果とメンタルヘルスの関係を示す既存のエビデンスを整理するために、文献調査を行いました。
- 2 **世界に存在するジェンダーに焦点を当てた組織における、メンタルヘルスの現在の優先順位を理解するための調査を実施。**
プロスピラグローバルは、2023年1月30日から4月3日まで、ジェンダーに特化した組織やジェンダーコミュニティの実践者を対象にオンライン調査を実施しました。この調査は、実施者⁴、資金提供者⁵、実務者⁶が、メンタルヘルスと女性のエンパワメント⁷の交差点においてどのように活動しているかの理解することを目的としました。
- 3 **女性のメンタルヘルスをエンパワメントフレームワークに統合し、世界中の女性をよりよく支援する方法を共に考え、実践的な事例と解決策を提供。**
これらの実践例を示すために、ケーススタディーを作成し掲載しました。これらのケーススタディーはすべてケイト・スベード ニューヨークとケイト・スベード ニューヨーク財団の支援を受けたものであり、女性のエンパワメントを拡大し、自立と尊厳を高めるものです。

組織アンケート



319

回答者数



回答者

75

カ国から参加



55%

何らかのメンタルヘルス業務に従事している

実務者アンケート



924

回答者数



回答者

99

カ国から参加



52%

メンタルヘルスに問題を抱えた経験がある

⁴ 実施者：主にジェンダーに焦点を当てたプログラムを実施する組織を説明するために使用されます。

⁵ 資金提供者：主にジェンダーに焦点を当てたプログラムに資金提供する組織を説明するために使用されます。これは、民間および公的部門の資金提供者、および個人の慈善家も含まれます。

⁶ 実務者：個人調査に回答した人口を説明するために使用されます。これは、ジェンダーに焦点を当てたプログラムに関与するすべての人、および提唱者を含むものです。

⁷ サンプルデータベースがないために、両方の調査は、プロスピラグローバルとケイト・スベード ニューヨークの連絡先、ならびに本レポートの最後にリストされている戦略的パートナーの連絡先に配布されました。また、LinkedIn、Facebook、Twitterなどのソーシャルメディアプラットフォームでも共有されました。参加に対する報酬は提供されませんでした。調査とその方法論の詳細については、<https://prospira.global/wgementalhealth> を参照してください。

ケイト・スペード ニューヨークからのメッセージ

ケイト・スペード ニューヨークは、女性と女の子のメンタルヘルスが彼女たちのエンパワーメントの基盤であるという信念を持っています。

2013年、私たちはルワンダのオン・パーパス・プログラムを皮切りに、製造パートナーであるアパヒズィ・コミュニティ・ベネフィット・コーポレーション（CBC）とのパートナーシップにより、女性のメンタルヘルスとエンパワーメントへの投資を開始しました。アパヒズィCBCでは、すべての従業員がフルタイムの雇用、一連のライフ・スキル・プログラム、メンタルヘルスサポートを受けることができます。提携初期の数年間で、女性のメンタルヘルスに投資することで、エンパワーメントの指標が維持されるだけでなく、改善されることが明らかになっています。これは、後にジョージタウン大学によって2017年に行われた「グローバル バリュー チェーン内のソーシャルエンタープライズのリンク」と題された報告書によっても確認されました。²

創業者のケイト・プロズナハン・スペードが自殺で亡くなった2018年、私たちはメンタルヘルスへの取り組みへのコミットメントを再確認しました。今日、私たちは女性のエンパワーメント活動にメンタルヘルスを組み入れ、グローバルに活動を続けています。

2022年、私たちは2025年までにソーシャルインパクト活動を通じて、10万人の女性と女の子にメンタルヘルスとエンパワーメントのリソースへのアクセスを提供するという目標を設定しました。また、ソーシャルインパクト・カウンシルと緊密に連携し、女性のメンタルヘルスを世界的に支援するとともに、アドボカシー(社会的な変化や政策の改善を促進し、特定の問題に関する意識を高める)の分野での取り組みも着手しています。そして、私たち自身の前進を誇りに思う一方で、それだけでは十分とはいえ、今後も努力を続けていきたいと考えています。

女性のメンタルヘルスは、それにふさわしい時間、注目、投資を受けていない現実があります。私たちはこの問題について語り、投資し、より多くの声と支援を届けることを使命としています。それが私たちがこの調査を依頼した経緯であり、みなさまがこの活動に参加する理由となることを願っています。

あなたが取り組まれているすべてに感謝します。この仕事は簡単ではありませんが報われるものであります、そして、それらを行いながらも自己ケアを行うことも大切です。

いかなる状況でも、私たちはあなたやあなたの組織がこの道のりを進まれることを願っています。私たちがこのレポートに取り上げられている多くのパートナーは、異なる段階で学びながら、革新を続け、成長しています。私たちは旅の途中であることを知っており、この旅を共に歩むことを嬉しく思っています。



リズ・フレイザー
ケイト・スペード ニューヨーク 最高経営責任者兼
ブランドプレジデント



タリン・バード
ケイト・スペード ニューヨーク ソーシャルインパクト エグゼクティブ・ディレクター
ケイト・スペード ニューヨーク財団 ディレクター

アバヒズィ コミュニティー ベネフィット コーポレーション

オン・パーパス：女性のエンパワーメントにメンタルヘルスを統合する力

オン・パーパスとは、ケイト・スペード ニューヨークの社会的企業の取り組みの呼び名です。私たちの使命は、オン・パーパスのサプライチェーンを活用し、これらのコレクションを作る女性たちをエンパワーし、彼女たちの住むコミュニティに投資することです。この活動を通し、私たちはメンタルヘルスへの投資により、女性のvoice(発言)、choice(選択)、power(力)にポジティブな影響を与えてきました。

オン・パーパスの一環として、ケイト・スペード ニューヨークは2013年から地元のハンドバッグ製造施設であるアバヒズィCBCと協力し、ルワンダのマソロで女性のエンパワーメント活動を支援しています。パートナーシップが始まりプログラムが成長するにつれて、このコミュニティにおけるエンパワーメントとメンタルヘルスを充実させる必要性がますます明確になりました。

このニーズに対応するため、ライフスキル・エンパワーメント・プログラムが開発されました。このプログラムには、個人及びグループカウンセリング、心身の健康プログラムへのアクセス、ソフトスキルワークショップなど、メンタルヘルスと心身の健康に関わる実質的な要素が含まれています。また、家族の健康、栄養、財政計画、語学講座などに関する知識と意思決定を改善することに焦点を当てた従来のエンパワーメント・プログラムも含まれています。

2017年、ジョージタウン大学はオン・パーパスの外部評価を実施しました。このリサーチでは、オン・パーパスが従来疎外されていた女性にエンパワーメントを与える雇用体験を提供しているとの結論に辿り着きました。

“アバヒズィCBCに参加したとき、私は1994年のルワンダ大虐殺による深刻なトラウマを抱えていました。セラピーセッションではカウンセラーが私に耳を傾けてくれていることが感じられ、以前よりもカウンセラーに心を開くことができました。今日、私は自分のために発言し、人々を許し、手放すことを学びました。癒しはプロセスであると信じており、私が言えることは、私が前進しているということです”

ヘナマナ、アバヒズィCBC 従業員

またこの雇用体験は、メンタルヘルスカウンセリングとトレーニングが相まることで、従業員のメンタルヘルスとエンパワーメントにポジティブな影響を与えていました。

これらの結果は、アバヒズィCBCが毎年実施している雇用調査によってさらに検証されました。この調査では、自己認識の不安スコア、家庭での意思決定における役割の認識、総合的なエンパワーメントの自己認識など、メンタルヘルスのアウトプットを測定しています。

2022年の報告書によると、従業員の89%がエンパワーメントを感じていると回答し、前年より14%増加しました。また、従業員の半数以上（53%）が日常生活でほとんど平穏を感じていると回答した一方、不安を感じていると回答したのは22%で、前年より7%減少しました。

10年近く経った今も、ケイト・スペード ニューヨークはアバヒズィCBCへの投資と製品調達を続けており、その結果アバヒズィCBCは、フルタイムの雇用、メンタルヘルスと心身の健康サポート、トレーニングとカウンセリング、各従業員とその家族の医療などを通じて、そこで働く250人以上の女性をエンパワーしています。私たちは、オン・パーパスのエンパワーメントの取り組みにメンタルヘルスを統合することで大きな効果があることを目の当たりにし、より広範なマソロのコミュニティに対してもメンタルヘルス・プログラムの支援を始めました。

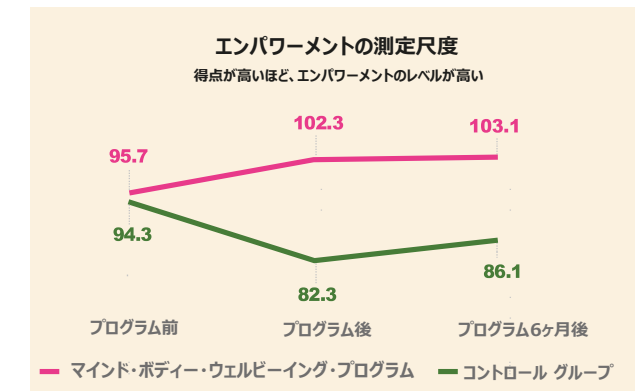
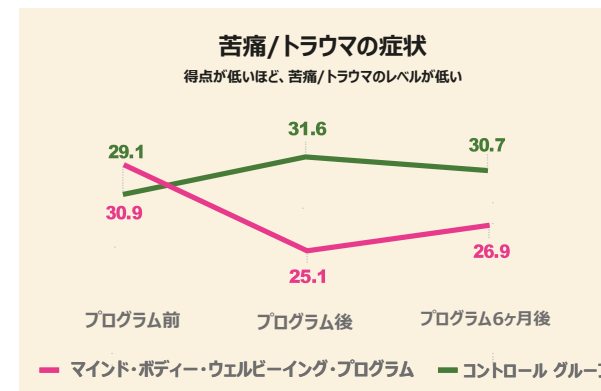
2018年、ケイト・スペード ニューヨークはアフリカ・ヨガ・プロジェクトと提携し、マインド・ボディー・ウェルビーイング（MBW）ヨガ・フォー・トラウマ・トレーニングをマソロのコミュニティ・メンバーに提供しました。

その目的は、マソロでヨガを学ぶ人々がストレスに対処し、心身の健康を自らサポートできるよう、心身プラクティスとそれに関連するメンタルヘルス応急処置ツールを提供することでした。

また、ケイト・スペード ニューヨークは、ルワンダの非営利団体Isooko Community Developmentが運営するMBWクラスやパートナープログラムを通じ、コミュニティのメンタルヘルスに投資を続けています。

ケイト・スペード ニューヨークは、Tides Foundationのドナー・アドバイズド・ファンドを通して、Isooko Community Developmentへの資金提供を続け、Isookoは2019年以来、マソロのコミュニティの約10,000人のメンバーを支援してきました。そのうち59%は女性です。

以下の結果は、ケイト・スペード ニューヨークがマソロのコミュニティで実施している包括的な取り組みの一環として、スポンサーを務めるアフリカ・ヨガ・プロジェクトの評価結果です。このプログラムに参加した女性は、6か月後でも、対照群と比較して、トラウマのレベルが低く、エンパワーメントのレベルが高いことがわかりました。



RESEARCH FINDINGS – 調査結果

今日、世界中の女性たちは、単に女性であるだけでより多くのストレスを経験している。

女性、特に制度的に不利な立場にあるコミュニティや社会から疎外されたコミュニティ⁸の女性は、私たちが世界的に抱える大きな課題の多くを担っています。補償のない介護労働、不景気による収入減、公衆衛生上の緊急事態における死亡率の上昇、気候危機に伴う資源への限られたアクセス、ジェンダーに基づく暴力、紛争時における人道危機への高まりなどです。

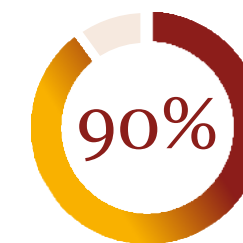
私たちが現在直面している社会的・経済的危機の多くは、女性に大きな影響を及ぼしており、これは私たちのリサーチにも反映されています。そして、メンタルヘルスはこうした社会的・経済的決定要因、特に社会的包摂、経済的資源へのアクセス、差別や暴力からの自由によって大部分が形作られています¹¹。

これらのストレス要因はしばしば、女性が自分の状況を変える妨げになる悪循環をもたらします。メンタルヘルスが十分にサポートされていなかったり、トラウマが生じたりすると、女性は苦しみます。このようなサイクルを断ち切ることは難しく、女性はうつ病、不安障害、心的外傷後ストレス障害（PTSD）など、

組織的に不利な立場にあるコミュニティとは、人々が生まれ、生活する社会的条件が、健康であり、繁栄する機会が保障されていない人々を意味します。これらの人々は、病気や機能障害、不健康の影響を不当に受けています⁸。

十分なサービスを受けられず、社会から疎外された人々とは、あらゆる種類の差別を経験し、公共財やサービスを利用する上で障壁（人種、民族、性別、性的指向、経済的、文化的、および/または言語的など）に遭遇する人々が含まれます⁸。

このような集団に属すること、あるいは属していると思われることでさえ、教育、雇用、健康、社会保障、住宅的扶助、家庭内暴力や施設内暴力からの保護、司法へのアクセスなど、さまざまな領域における権利やサービスの利用面において、不平等のリスクを高めます⁹。



90%の女性は、自分が単に女性であるだけで、ストレスが増加すると感じている。

メンタルヘルス上の問題をより高いレベルで経験するのです。これは、男性の2倍の割合です。

調査を行ったほぼすべて（90%）の調査対象者が、女性は今日の世界で単に女性であるというだけで、ストレス要因が増加していることに同意しました。2022年9月、ケイト・スペードニューヨークが国連総会と同時期に主催したイベントで、ウーマン・デリバーのCEOであるマリハ・カーン氏は「女性にとって、人生はトラウマである」と述べました。

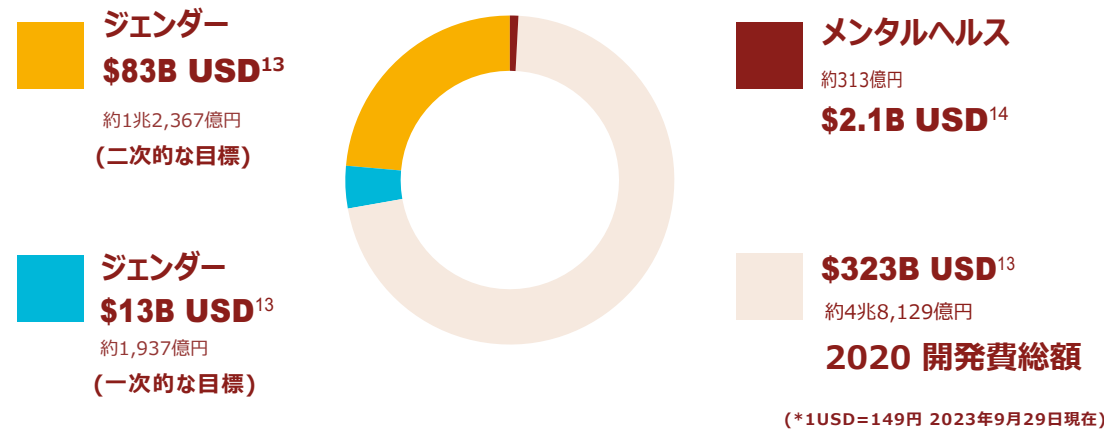


“このレポートは、ジェンダー格差と構造的不平等が、女の子と女性の幸福と持続可能な開発目標の達成に与える影響について、大いに必要とされる証拠を提供しています。

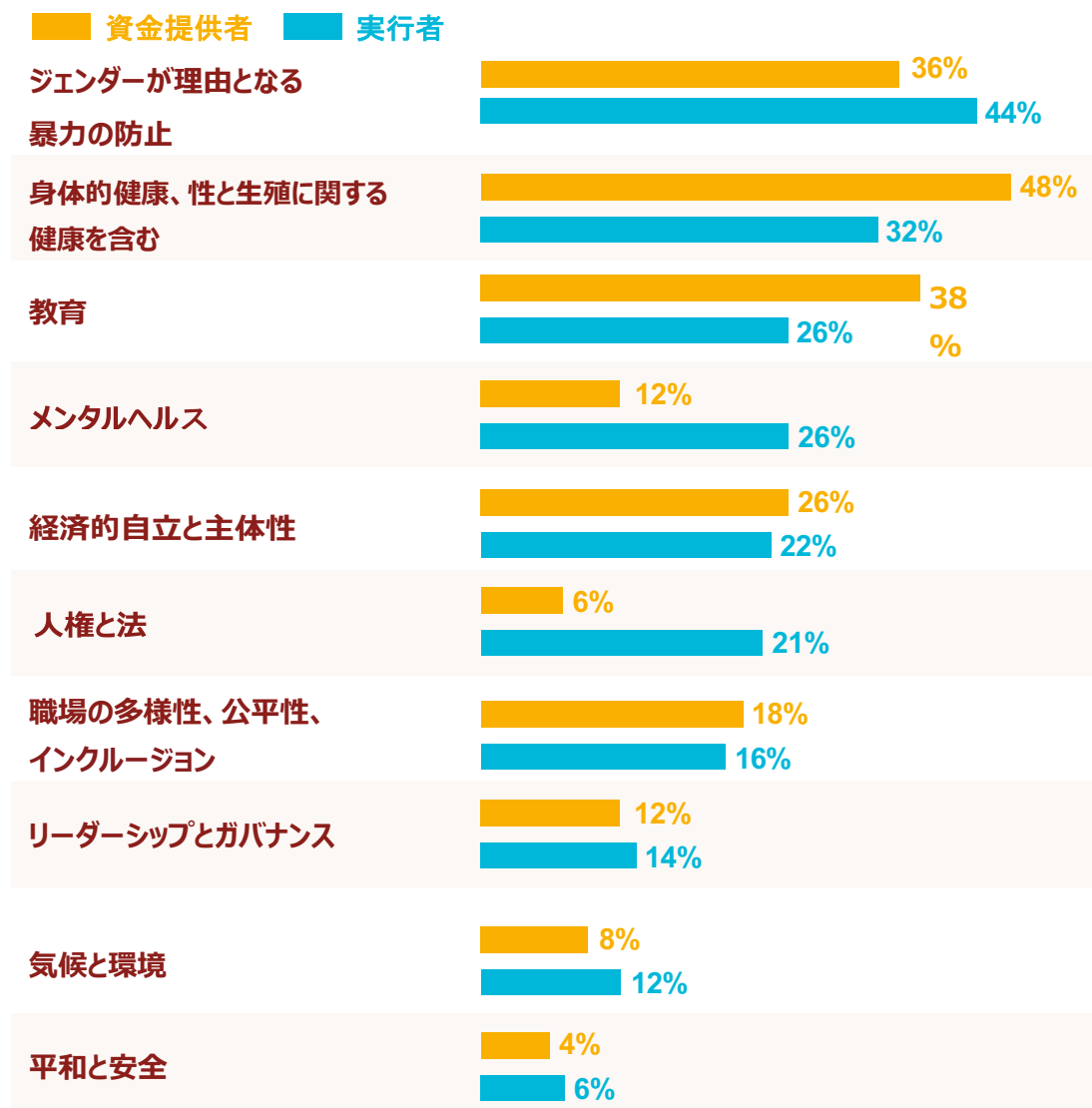
私たち人類の半数は、単純にその人であるという理由だけでストレスやトラウマを経験しています。これは容認できるものではなく、受け入れがたいことです。特に、女性のメンタルヘルスと幸福に影響を与えるストレス要因やリスクは、私たちがそれらに対処しようとするときに悪化するのです”

シーア・ノロジー
国連基金ジェンダー・イノベーション担当シニアディレクター

ジェンダーとメンタルヘルスのためのグローバル資金調達

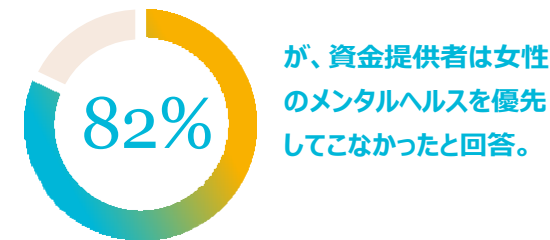


ジェンダー組織のトップ3の優先事項は、次のとおり



メンタルヘルスは長きにわたって

軽視され、十分な財源を受けず、過小評価されてきた。



女性のメンタルヘルスのための資金調達は、世界中の国々および国際システムの両方で長きに亘って過小評価されてきました。そして、女性のエンパワーメントに対する現在のアプローチでは、メンタルヘルスは明確な役割を果たしておらず、リサーチや実践においても優先されていません¹²。

ジェンダー・コミュニティもこれに同意しています。実務者のほぼ3分の2（61%）は、メンタルヘルスがジェンダー平等とエンパワーメントの取り組みに十分に統合されていないことに同意し、82%の実務者は資金提供者が女性のメンタルヘルスを優先していないことに同意しています。

2020年、3230億米ドルがグローバル開発に費やされ、そのうち860億米ドル（27%）が、ジェンダーを目的や目標の中心¹³または重要な要素とするプログラムに費やされました。これに対し、メンタルヘルスに費やされたのは、わずか2億1,000万米ドルでした¹⁴。

この調査に参加した組織の半数以上（55%）が、ジェンダー平等とエンパワーメントのより広範なプログラムの一環としてメンタルヘルスの取り組みを行っていると述べました。しかし、メンタルヘルスの取り組み（GBVの防止も含む）を行っている組織の数は、資金提供者の間では大幅に少なく、

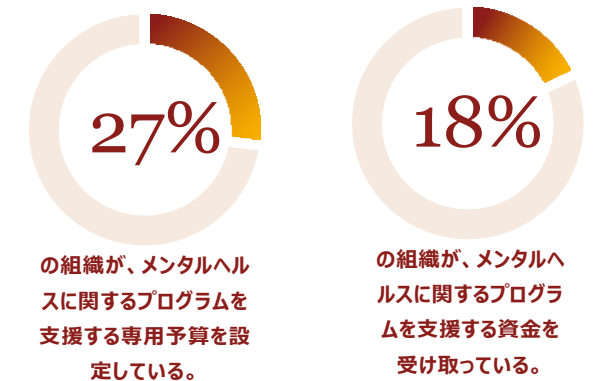
“強力なメンタルヘルスは、ジェンダーのエンパワーメントと平等の基盤となる要素として軽視されてきました。ジェンダー平等を支援する資金提供者は、繁栄と生産性を促進する重要な要素として、女性と女の子のメンタルヘルス支援を取り入れる歩み寄りが必要です。メンタルヘルスへの投資は、個人に影響を与えるだけでなく、持続の可能性と経済的成果にも広く影響を与えます”

S. モナ・シンハ、イクオリティ・ナウ・グローバル・エグゼクティブ・ディレクター、ウーマン・ムービング・ミリオンズ理事長

彼らはより頻繁に身体的健康、教育、経済的エンパワーメント、エージェンシーに焦点を当てていました。これは、資金提供者と実施者の関心のズレを示唆しています。予算支出に応じた組織の優先順位トップ3について尋ねたところ、メンタルヘルスを優先順位トップ3と考えている実施者はわずか26%でした。

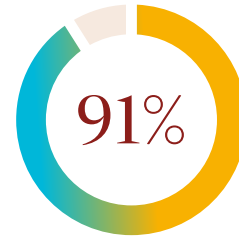
この数字は資金提供者の間ではさらに低く（12%）、資金提供者と実施者の間にズレがあることをさらに示しています。

これは、すべての組織のうち27%のみがプログラムのメンタルヘルスの取り組みを支援するための専用予算を持ち、18%のみがプログラムのメンタルヘルスの取り組みを支援するための資金を受け取っていることから、予算不足が原因である可能性があります。



しかしながら、メンタルヘルスは、 女性のエンパワーメントの基盤

今回の研究の一環として、メンタルヘルスと女性エンパワーメントの交差に関する広範なデスクレビューが行われました。その結果は以下に要約し、別途引用した研究のフレームワークで紹介されていますが、メンタルヘルスが女性エンパワーメントの基盤であるという主張を明確に支持しており、調査対象となった実務者の91%が同意しています。



の人々は、メンタルヘルスは女性のエンパワーメントの基盤であると考えています。

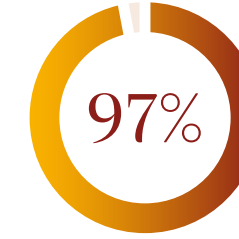


このフレームワークから分析すると、メンタルヘルスは女性のエンパワーメントの基盤となるものであり、エンパワーメントが育つ土台です。たとえ根が見えなくてもその根は成長に不可欠なものです。そして、花と同じように女性のメンタルヘルスにはエンパワーメントの基盤として栄養が必要なのです。

メンタルヘルスは、社会的および経済的要因（社会的包摂、経済的資源へのアクセス、教育、差別や暴力からの自由など）によって大きく影響を受けます。これらの要因は、私たちが生活する社会的・経済的な現実の基盤であり、良好なメンタルヘルスが根付く土壌となります。



メンタルヘルスが良好であれば、女性は自分自身に対してよりポジティブな態度や考え方を身につけ、より健康的な行動、より大きなコントロールと主体性を発揮できます。そして個人、コミュニティ、社会のそれぞれのレベルにおいて完全な形で参加するための主体性や困難に耐える力、自己達成感を手に入れられるのです。



の人々は女性のエンパワーメントにメンタルヘルスを統合することで、より持続可能なエンパワーメントの成果が得られると考えています。

こうした強い根は、自尊心や自信を育むのに役立ち、それが最終的にエンパワーメントの種蒔きへと繋がります。そして、力関係の変革を通じて選択の幅を広げ、発言権が強化され、女性が自分の人生と未来をよりコントロールできるようになるのです。

私たちは、このようなアプローチでメンタルヘルスを女性のエンパワーメントに統合することが、より持続可能なエンパワーメントの成果につながると信じています。そして、97%の実務者もこれに同意しています。

フレームワーク

インプット： 女性のエンパワーメントと平等の枠組みと実践にメンタルヘルスを組み込みます。

アウトプット： ターゲットを絞ったプログラムや資源にアクセスすることで、女性の人生に影響を与える状況が改善されていきます。

成果： 女性は自己に対するより肯定的な態度と考えを身につけ、より健全な行動を取るようになります。女性は自分の人生に完全に参加し、その結果、より高い自尊心と自信を育みます。

インパクト： エンパワーメントの基盤にメンタルヘルスを据えることで、最終的には持続可能な選択肢の拡大と発言力の強化を実現し、これによって女性は自分の人生と未来をよりコントロールできるようになります。

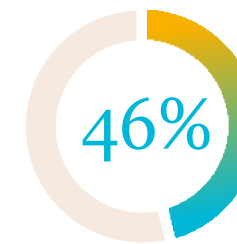


女性のメンタルヘルスとエンパワーメントフレームワーク全体を参照する



困難な状況下でも、

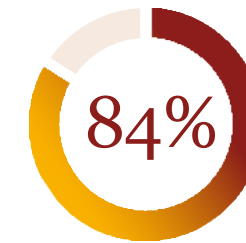
メンタルヘルスの統合に取り組むジェンダー組織



の組織が、過去1年間にメンタルヘルスに関する取り組みを増加させた。

ジェンダー平等とエンパワーメントに加えて、メンタルヘルスにも取り組む組織の55%のうち、ほぼ半数（46%）が、過去1年間にメンタルヘルスに関する取り組みを増加させています。その理由を尋ねると、組織の大多数は需要と組織の優先順位の変化を理由に挙げ、資金提供者においては優先順位の遅れをとっていると述べました。

同時に、世界保健機関（WHO）¹⁵や他団体は、世界的にメンタルヘルス疾患の有病率が増加していることを確認しています。



の組織が、メンタルヘルスに関する取り組みを増やしたいと考えている。

世界では10億人以上が精神疾患に苦しんでおり、その大多数は女性です。多くの国で、これらの統計は増加しているのです。

実際、調査に参加した全団体の84%（現在メンタルヘルス活動をしている団体も、そうでない団体も）が、メンタルヘルスの取り組みを増やしたいと考えています。同様に、84%の実務者が、ジェンダー分野におけるメンタルヘルスへの資金提供を増やす必要性を感じています。

メンタルヘルス活動が増加した理由



精神障害は、世界的な疾病負担の主要な原因です。障害によって制限を受ける期間（32%）は、他のどの健康状態よりも多くなっています。COVID-19のパンデミックの結果、不安症とうつ病の有病率は少なくとも25%増加しました。

世界保健機関(WHO)¹⁵

逆境と精神疾患には周期的な関係があるため、世界的な大危機に見舞われる人が増え、その多くが女性に不当な影響を与えるようになれば、その数は増え続けることが予想されています。

ザ・ランセット(医学雑誌)¹⁶

“メンタルヘルスをサポートすることは、弱さの表れではなく、むしろ私たちが本来持っている人間性を証明するものです。それは単なる親切を超えるものであり、個人の幸福と私たちのコミュニティの回復力への投資です。理解、共感、そして資源配分を通じて、私たちはメンタルヘルスを受け入れ、偏見をなくし、一人一人が確実に見られ、聞かれ、支えられるようなグローバルな環境を育む力を持っているのです”

キャロライン・マカラ アバヒズィ CBC 最高財務責任者

メンタルヘルスに関するプログラムは、 主に啓発に重点が置かれている

どのようなメンタルヘルス活動が行われているかといえば、圧倒的に一般の人々の教育と啓発に重点が置かれています。高所得国に拠点を置く組織では、プログラムやサービスの提供がより一般的でした¹⁷。

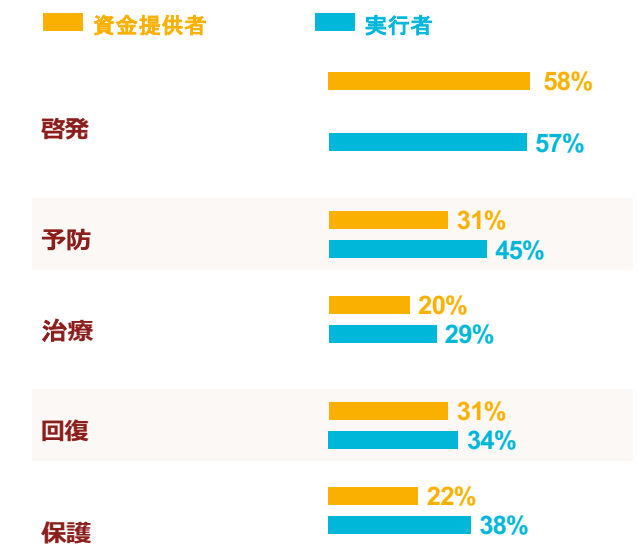
しかし、調査によると、治療を必要とするメンタルヘルス状態を抱えている世界の大多数の人々は、低・中所得国に住んでいます。メンタルヘルスにジェンダーエンパワーメント活動を組み込んでいる組織が増えている一方で、メンタルヘルスコンディションの治療や回復、リハビリテーションの提供、資金提供を行っている組織ははるかに少ないと述べられています。これは特に、メンタルヘルスとジェンダーに関する取り組みに資金を提供している組織に当てはまり、資金提供の優先順位がニーズに追いついていないという同様のパターンを反映しています。

治療に対する支援を特に強化する必要性は、実務者からの視点でも明らかです。ほとんど全ての実務者（96%）が、メンタルヘルスは単なる幸福以上のものであり、女性は、専門的なメンタルヘルスサポートにアクセスする必要があると同意しています。

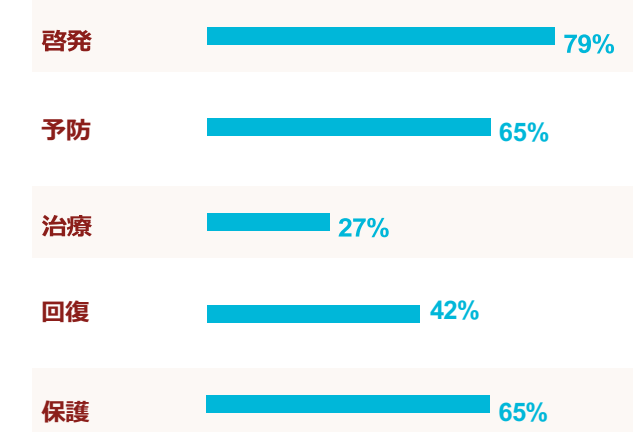
このギャップは、組織が使用するフレームワークを見る際にも明らかです。エンパワーメントのフレームワークの中にメンタルヘルス対策が含まれているかどうか尋ねたところ、「含まれている」と答えた組織は全体の3分の2以下（63%）でした。

ジェンダー活動の一環としてメンタルヘルスを統合している組織のグループではこの数字は70%に上昇しました。しかし、フレームワークに含まれているメンタルヘルスの構成要素について尋ねると、同様の傾向が見られ、重点は主に促進¹⁸、予防¹⁹、および保護²⁰に置かれていました。

支援されているメンタルヘルス・プログラムや基金



フレームワークに含まれるメンタルヘルスの側面



¹⁷ 高所得国（高所得国および上中所得国）と低所得国（下中所得国および低所得国）の分類は、世界銀行の国別経済分類システムから引用。

¹⁸ 良好なメンタルヘルスの促進は政策の環境を強化するための行動や、ネットワーク構築、利害関係者とのコミュニケーション、メンタルヘルスリテラシーの向上、行動変化のための戦略的コミュニケーションの活用が必要となります。メンタルヘルス促進への介入は、人々が生活し、働き、学び、繁栄する環境で提供されることで、総合的な幸福を改善します。これらには、学校や職場のメンタルヘルスプログラム、幼児期での介入、社会支援とコミュニティエンゲージメント、女性のエンパワーメント、差別防止プログラム、およびメンタルヘルスの社会決定要因に取り組むその他の介入が含まれます。

¹⁹ メンタルヘルスの予防は、人々がメンタルヘルスの問題を抱えることを防ぐことに焦点を当てています。これは、メンタルヘルスの問題を経験するリスクが高い人々を支援し、メンタルヘルスの問題を抱えている人々が健康を維持できるようにすることです。例えば、メンタルヘルス週間などの反スティグマキャンペーンや、学校の子どもたちに感情やメンタルヘルス不調について教えることなどが挙げられます。

²⁰ メンタルヘルスに不調を経験する人の人権保護は、世界人権宣言で認められているすべての市民的、政治的、経済的、社会的、文化的権利を、精神疾患を患うすべての人々が行使する権利を保障することに焦点を当てています。

ジェンダー平等とエンパワーメント

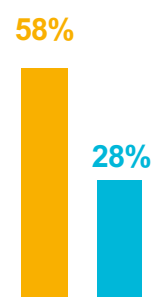
を推進する人々への支援、さらに高まるその必要性

この調査から明らかになったもうひとつの重要な発見は、最前線で働く人々のメンタルヘルスをサポートする必要性です。

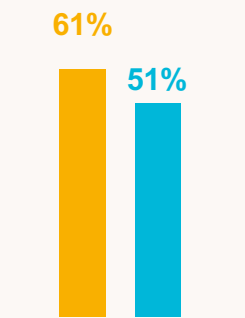
実務者への調査では、実務者より広範な一般の人々のストレス値を比較するため、デロイト・ウーマン・アット・ワーク・グローバル・スタディー21に沿った質問がされました。

実務者たちはウーマン・アット・ワーク・グローバル・スタディーの回答者と比較し、意欲低下の状態に陥っている可能性が2倍以上ありました。また、より多くのストレスを感じていると回答する傾向が高く、ワークライフバランスが得られていると回答した数は低かったのです。

■ グローバル ジェンダー・コミュニティ調査

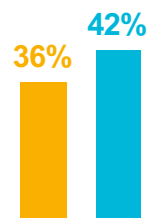


意欲が低下している

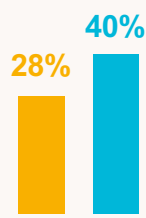


去年よりストレスレベルが上がっている

■ デロイト・ウーマン・アットワーク グローバル調査



最適なワークライフバランスが得られていない

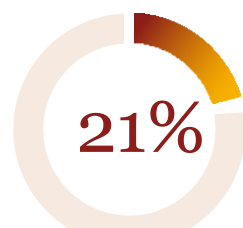


職場から十分なメンタルヘルスの支援を受けていない

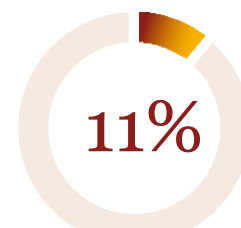
この傾向は、メンタルヘルスに問題を経験したことがある実務者や、歴史的に疎外され、抑圧されてきたコミュニティの一員であると自認する人々に顕著に現れています。彼らは1年前よりも意欲が低下し（それぞれ63%、68%）、ストレスを感じている（それぞれ65%、73%）という結果が出ています。

さらに、これらの実務者は、雇用主から十分なメンタルヘルスサポートを受けていると回答したものが著しく低く、この調査結果は、組織調査とも一致していました。ジェンダーポートフォリオの一環としてメンタルヘルス活動に取り組む組織のうち、スタッフのメンタルヘルスをサポートするための専用予算を持っているのはわずか21%で、具体的な資金援助を受けていると回答したのはわずか11%でした。

このような状況を踏まえると、長期的なジェンダー・エンパワーメントの成果を支援するために、メンタルヘルスへの投資が不可欠である（85%）と、実務者の意見が一致していることは驚くべきことではありません。



の組織が従業員のメンタルヘルスを支援するための専用予算を設定している。



の組織が従業員のメンタルヘルスを支援するための特別な資金援助を受けている。

文化的に適切な方法で

メンタルヘルスを女性のエンパワーメント活動に統合した優良事例

ジェンダーポートフォリオの一部としてメンタルヘルスの治療を提供する組織のうち、圧倒的多数（77%）が、臨床的（56%）または非臨床的（56%）を問わず、地域ベースのケアを提供しています。このアプローチは、世界保健機関の包括的なメンタルヘルスアクションプラン²²の第2目標と一致しています。

ほとんどの場合、コミュニティベースのケアは、個人や家族、コミュニティをケアの受動的な受け手ではなく、積極的な参加者として巻き込むことで、人を中心としたアプローチを形成しています。

このように、コミュニティベースと人を中心としたケアは、メンタルヘルスに対する人々の文化的な理解を深め、尊重し、適応することを目指しています。これにより、すべての人々に対し継続かつ持続可能なメンタルヘルスへの恩恵を提供することができるのです。²³ 本報告書の4-5ページ、18-19ページ、22-23ページでは、メンタルヘルスを女性のエンパワーメント活動に組み込みジェンダーフォーカスした組織のケーススタディーを紹介しています。さらに、12-13ページでは、メンタルヘルスが女性のエンパワーメントの基礎となることを示す、実証に基づく概念フレームワークを提供しています。

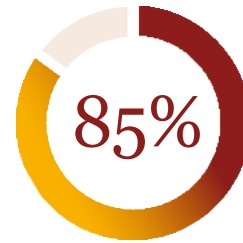


資金不足こそ

進歩の最大の弊害

しかし、この分野で活動する組織や個人は、現在のエンパワーメントプログラムに女性のメンタルヘルスを統合することに対して、大きな課題に直面していると報告しています。85%の組織が、ジェンダーワークへのメンタルヘルスの統合をさらに進める上で、何らかの足かせがあると述べています。

主な理由は、資金調達に関連したものでした。これは、多くの組織がメンタルヘルスの取り組みに専用の予算や資金を確保することなく、その対策に取り組んできたという、これまで調査結果を踏まえれば驚くべきことではありません。



の組織が、職場においてメンタルヘルスをさらに統合する上で何かしらの障壁を抱えている。

41%
資金調達に取り組んだが、成果が得られなかった。

33%
メンタルヘルスの取り組みに適したプログラミングの専門家を見つけられない。

15%
現在の組織戦略に含まれていない。

31%
資金調達の機会について十分な知識がない、または認識をしていない。

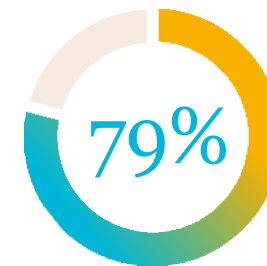
30%
プログラミングをサポートするための専門家が内部に不足している。

11%
ジェンダー平等とエンパワーメントの枠組みにメンタルヘルスの取り組みが含まれていない。

23%
内部からの資金調達の支持を訴えるための十分な研究が不足している。

“女性のエンパワーメントプログラムにメンタルヘルスを効果的に統合するには、ジェンダーコミュニティ内の実務者、実行者、資金提供者の協働的な努力が必要です。このリサーチで提示された提言は、この取り組みを開始するための強固な基盤となるものです。”

ルット・トゥリムチ, ナヤコンサルティング・ジェンダーアドバイザー



の組織は、メンタルヘルスの資金調達のための機会を得るアクセスが必要としている。

これを改善するために何が重要かという質問に対して、組織はより多くの資金、より多くの専門知識、および実践的なガイダンスが必要であることを挙げています。

このリサーチはジェンダーワークにメンタルヘルスを統合し、改善するために、女性のエンパワーメントを促進する道りの一環としてメンタルヘルスを支援する必要があることを示しています。

より多くの資金調達機会へのアクセス 79%

ジェンダーワークにメンタルヘルスを統合するための実践的なガイダンス 52%

メンタルヘルスの専門知識を増やす 48%

ジェンダーエンパワーメントのためのメンタルヘルスの重要性を裏付ける証拠。 46%

信頼できるパートナーの特定と審査のサポート 42%

レポートの残りの部分では、メンタルヘルスをエンパワーメントの活動に取り込んだ、ジェンダーに焦点を当てた組織のケースと、メンタルヘルスが女性のエンパワーメントの基盤であることを示す経験的に裏付けられた概念的フレームワークを提供します。

ライジング・タイド・キャピタル：内部からのスタート

ライジング・タイド・キャピタル（RTC）は2004年にニュージャージー州で設立され、起業家精神を通じて低所得世帯やコミュニティの経済力、回復力、機会を高めることを使命としています。

2019年、RTCはフルタイムのスタッフや彼らが共に働いている起業家に対して、メンタルヘルスとレジリエンス（困難からの回復力）のサポート（フローリングプログラム）を加えるというアイデアを検討し始めました。

ライジング・タイド・キャピタルのアルファ・デメラスとジョイニコル・マルティネス博士に、彼らが関わる人々のメンタルヘルスと心身の健康をサポートするまでの道のり、それがもたらした影響、そしてその過程で直面した課題について話を聞きました。

メンタルヘルスを仕事に取り入れ始めたのはいつですか？

また、なぜ始めたのですか？

私たちは、多くの起業家が夢を追うのをやめてしまう理由が、耐え難いレベルのストレスや不安、抑うつに関連していることに気づきました。そこで私たちは、経済的なレジリエンスがあるかという観点ではなく、ビジネスを管理する能力があるか、家庭で負っている責任、市民として社会に貢献する活動に関与しているかなどの観点からレジデンスを捉え直しました。

起業家たちのメンタルヘルスと心身の健康をサポートする方法について話し合う中で、私たちは、第一線で支援する私

たち自身が、自分のメンタルヘルスと心身の健康を支援していないことに気づきました。そこで、この仕事をするためには、内側から始めなければならないと気づいたので。

フローリングプログラムは、あなたにどのような効果をもたらしましたか？

私たちは、メンタルヘルスをサポートするための多くのツールを持ち、人々が圧力やトラウマの下でどのように反応するかを認識しています。その結果、人々は自分のメンタルヘルス、満足度、抑うつ、不安について話すことが可能となっているのです。

実際、この活動を始めて最初の1年間で、アンケートに答えた人の**80%が葛藤やストレスが軽減された**と回答し、**90%以上がより積極的に仕事に取り組んでいる**と答えています。軽度から中度のうつ病または不安を対象としたコミュニティベースのフレームワークトレーニングに参加した約94%の参加者は、自分の不安に対処し、身近な人の危機やうつ病の症状を認識する準備がより整っていると報告しました。



メンタルヘルスを自分たちの仕事に統合する道を歩み始めたジェンダー団体に、何かヒントはありますか？

- 1 シニアレベルでのサポートが重要です。** リーダーシップレベルで、これが仕事の重要な部分であることを認識し決断することが必要です。
- 2 感情を表面化させ、スペースを作りましょう。** 人々は、自分の気持ちを表現する必要があります。これは、メールで“無気力を感じている人はいますか？”と尋ねたり、ミーティングをセッティングして「悩みを抱えている誰かのために、スペースを作り話を聞きたい」と提案するだけで、始められます。そこに5分-10分費やすだけで、その先の時間を効率的に作業できることがわかりました。
- 3 資金提供者から信頼を得るためには、信頼できる組織であることと、課題に向き合う姿勢が必要です。** 強さと成功は、問題解決にはなりません。長期的な持続可能性や燃え尽き症候群などについて率直に話すことを検討しましょう。
- 4 プロセスばかりを重視しないでください。** 不健全な真実やパターンに気づき、それを断ち切り、再構築を始めるには、時間とサポートが必要です。働き方を見直す必要さもあるかもしれません。近道はありません。もし近道があれば、私たちはそれを選んででしょう。

ライジング・タイド・キャピタルのフローリングプログラムは、ケイト・スベード ニューヨーク財団の支援を受けています。RTCは、チームメンバー、コーチとインストラクターのコミュニティ、そしてライジング・タイド起業家たちが困難や逆境に立ち向かう力と、心身ともに充実した状態を維持・向上させられるようにサポートすることをコミットしています。ライジング・タイド・キャピタルについて詳しくはこちら：
www.risingtidecapital.org

ライジング・タイド・キャピタルのフローリングプログラム

朝にレジデンス（回復力）を高める習慣を取り入れる。

従業員が自分の気持ちを表現し、必要であればサポートを受けられる場を設ける。

職場でのストレスを管理し、職場環境がより活性化する方法についての研修を実施する。

コミュニティに根差したフレームワークを用いて、軽度から中程度のうつ病は不安症状を持つ人を特定し支援する。

外部カウンセラーによる個人レベルのサポートを実施。

7週間のサイクルで運営 - 6週間の勤務と1週間の振り返りと休息。

組織全体にトラウマ対応の取り組みを統合する。

現場でメンタルヘルス・ファーストエイドを行える従事者を認定する。

起業家向けのコミュニティビジネスアカデミーに、レジリエンス(回復力)を高め活性化させる基準を盛り込む

ザ・ローウーイーストサイド・ガールズ・クラブにおけるスペース作り

ニューヨーク市の若い女性や多様なジェンダーをもつ若者の
内なるパワーを高める、ザ・ローウーイーストサイド・ガールズ・クラブ (LESGC)

2022年、LESGCは、集団的な癒しを育み、心理社会的な幸福を促進し、メンバーとその家族が成長するための生涯スキルを共有することを目的として、あらゆる性別・世代に包括的なウェルネス・サービスを提供するウェルビーイング&ハピネス・センター (CWBH) を立ち上げました。

LESGCの共同エグゼクティブ・ディレクターであるエボニー・シンブソンに、ウェルビーイング&ハピネス・センター開設までの道のり、センターがもたらした影響、その結果見られた変化について話を聞きました。

ウェルビーイング&ハピネス・センターが設立された経緯は？

ウェルビーイング（心身の健康）の要素は、私たちのプログラムの一部として常に存在してきました。なぜなら、女性と女の子にとって、メンタルヘルスは私たちの環境や社会で果たす役割と密接に関連しているからです。自分の生きてきた経験を理解し、それが日々の意思決定にどのように影響しているかを理解できない場合、最高の自分を表現することは難しいのです。そこで、私たちは、共に働いている若い女性たちがそれを実践できるように支援しています。

関心の高まりは、センターの設計や提供するサポートにどのような影響を与えたのでしょうか？

2017年頃から、若者やその家族から、より多くの支援が必要だという声が聞かれるようになりました。これはもちろん、パンデミックの結果として増加したものです。メンタルヘルスやメンタルウェルネスについて語ることの素晴らしさは、それに取り組む方法が数多くあるということです。一つの方法がすべての人に当てはまるわけではなく、ある人はセラピストに会う必要があるかもしれないし、別の人はランニングや瞑想が必要かもしれない。私たちのセンターでは、働いている女性や女の子たちがつながりを感じ、発言に耳を傾けられ、そして癒されるように、こうしたツールをすべて提供しています。

センターは2022年秋に開設されたばかりですが、どのような影響が生まれましたか？まだ時期尚早とは思いますが、教えてください。

物理的なスペースを得た影響は、私たちが考えていた以上のものでした。創設されたばかりのマインド&ボディスタジオで図書館の探検をしたり、ウェルビーイングラウンジで紅茶を入れて飲んだり、彼女たちは自分の人生を生きる上で役立つものを、手元で楽しめるのが大好きなのです。そして、それは常に私たちの目標であったと思います-若い女性たちが自分の夢や情熱を探求し、同時に人生の試練に立ち向かい、互いに、そして自分自身をサポートする方法を学ぶことができる場を持つこと。

若者たちは、それぞれ異なる物語、経験、苦勞、トラウマを持っていたとしても、私たちが共に働いているコミュニティの中では、彼らの可能性が認められ、あらゆる方法で支援され、彼らのことを本当に気にかけ、擁護するスタッフ、彼らのために姿を現すメンバーがいるという共通の経験を持っているのです。



Photo by Kelly Adams

メンタルヘルスを自分たちの仕事に組み込もうとしているジェンダー団体に、何かアドバイスはありますか？

- 1 スペースを作りましょう。** 帰るべきコミュニティとそれに付随するサポートがあることで、私たちと共に働く若者たちは、生き生きとした大人になるための自信と安心感を得るのです。
- 2 聞くことに時間を割いてください。** コミュニティのニーズは必ずしも直接的に表明されるとは限りませんが、場を設けることで、直接的に恩恵を受けるグループの間でニーズが表面化することはよくあります。
- 3 文化的に適切なケアを確保してください。** メンタルヘルスの仕事は一律ではなく、コミュニティによって、また異なる規範や生活体験によって、見え方が異なるものです。

ウェルビーイング&ハピネス・センターは、ケイト・スパード ニューヨーク財団の支援を受けています。アバヒズイーストサイド・ガールズクラブは、彼らに関わる若者やコミュニティにメンタルヘルス資源を提供することにコミットしています。LESGCとセンターの詳細はこちらをご覧ください: www.girlsclub.org

“私は、自分の声を見つける手助けをしてくれる女性たちと繋がる必要がありました。私はいつも声を上げたいと思っていましたが、発信する場がなく、誰も私に視線を置き、耳を傾けてはいないと感じていました。しかし、ピアサポート（お互いに支え合う活動）によって、私は自分の声を学び、自分の声が必要であることを知る助けを得たのです。それは私のためだけでなく、声がない女性たちを助け、彼らのために何らかしらの形で代弁し、彼らが直面していることについて声を上げることができるようにサポートすることができたのです”

タンヤ、CWBHメンバー

メンタルヘルスのサポートを提供：

心と身体（あらゆるレベル向けのヨガと太極拳を含む）

[運動とダンスウェルネス](#)

[コーチング](#)

[栄養とヘルシークッキング](#)

[ソーシャルサービスサポート](#)

[コミュニティアートプログラム&ギャラリー](#)

[コミュニティサポートグループ](#)

[労働力開発と経済の健全性](#)

[コミュニティ組織化のための拠点](#)

結論と今後のステップ

この調査を通して、女性のメンタルヘルスとエンパワーメント双方の重要なつながりを信じているのは私たちだけではないことを学びました。それは私たちだけでなく、誰にとっても明らかです。

このリサーチの結果は、ジェンダー・コミュニティに現在の状況を理解させるものであり、私たちの望みは、将来的に進歩を加速させるための強力な基礎となることです。

私たちは、世界のより多くの資金提供者や実行者が、メンタルヘルスを女性のエンパワーメントの中心に位置づける取り組みに参加し、世界中の女性と女の子のメンタルヘルスを認め、支援し、ケアするコミュニティを創り上げることを願っています。

ケイト・スバード ニューヨークを含む多くの組織は、メンタルヘルスをめぐるコミュニティとサポートを構築するための実践的な方法として、従業員やパートナーにメンタルヘルスファーストエイドの認定を受ける機会を提供しています。

心肺蘇生法（CPR）が心臓発作を起こしている人を助けることができるように、メンタルヘルスファーストエイドは、メンタルヘルスや薬物使用に関連した危機を経験した人を助けることができます。

メンタルヘルスファーストエイドは、精神疾患や薬物使用障害の兆候を見分け、理解し、対応する方法を学ぶコースです。このトレーニングでは、メンタルヘルスまたは薬物使用上の問題を発症している可能性のある人や、危機的状況にある人に手を差し伸べ、初期的な援助や支援を提供するために必要なスキルを身につけることができます。

メンタルヘルスに関する認知度を高め、偏見をなくし、基本的な技能や知識を参加者に提供するメンタルヘルス・プログラムの例は、世界中に多く存在します。

実装者への提言：

1 内部から始める

- 内部のポリシーと慣行を批判的に検討し、内部チームがメンタルヘルスのサポートと文化的に適切なケアを利用できるようにします。
- チームが安心して議論できる安全なスペースを作る。同時に、組織のメンタルヘルス文化を構築する方法を模索する。

2 対象者の声に耳を傾け、学ぶ

- 対象となる人々との対話に参加し、彼らが直面している課題と、それに対処する解決策を理解する。
- 実施される解決策が、対象者のニーズに具体的に応え、地域社会に根ざし、人を中心としており、専門家の指導の下に実施されることを確認する。

3 学び、助け合う

- フレームワークとこの調査レポートを用いて、組織内および地域社会でより多くの行動と資金の促進を提言する。
- メンタルヘルスをエンパワーメントと平等の活動に統合するために活動している他のジェンダー団体や実装者とのつながり、支援し、そこから学ぶ。

“この報告書は、世界中の女性の生活にポジティブな影響を与える政策、実践、調査の変化を促す可能性を秘めています。”

ヘレン・ハーマン
オーリゲン&メルボルン大学教授



アパヒズイ CBC

資金提供者への提言：

1 パートナーの声に耳を傾ける

- あなたが積極的に資金を提供しているかどうかにかかわらず、女性のメンタルヘルスは、あなたのパートナーによってすでに行われている活動の一部である可能性が高いことを認識する。
- 資金提供している組織に、チームや従業員のメンタルヘルスを支援するためにどんな活動を行っているか、そしてどのような支援が必要なのかを尋ねる。

2 資金提供の優先順位の見直し

- スタッフのトレーニングやメンタルヘルスプログラムの開発などの活動に資金を割り、より広範なジェンダーイニシアチブの一環として、女性のメンタルヘルスのための資金をより利用しやすく、アクセスしやすくする。
- メンタルヘルスを既存の女性や女の子のエンパワーメント活動に統合する、地域主導のコミュニティに根ざした解決策を受け入れましょう。
- 多くの実装者や資金提供者にとって、メンタルヘルスを女性のエンパワーメントと同等な重要要素として統合することは、比較的新たな取り組みであることを念頭に置き、その新しく革新的な取り組みに資金を割く。
- 資金提供先で行われているメンタルヘルスの取り組みが、コミュニティベース、人ベース、文化的配慮、そして根拠に基づいたもの（新たな根拠の開発を含む）など、効果的な手法の原則に基づいていることを確認する。

3 共に学び、推進する

- 女性と女の子のエンパワーメントのためのメンタルヘルスへの投資は、多くの資金提供者にとって新しい分野です。あなたの資金提供が、この分野を強化するためにどのように役立つかを根拠とともに検討しましょう。
- 資金提供の効果を測定し、その成果と、そこから得た教訓も含めて報告を。
- 世界的な投資の加速に向けて、共同資金調達、学習、触媒になりうるイニシアチブに他の出資者が参加するように積極的に働きかける。

このレポートが、女性のメンタルヘルスへの投資が社会やビジネスへの有益な貢献を果たすだけでなく、女性の権利として重要であることを再認識させるものであることを願っています。

世界中のすべての女性と女の子は、良好なメンタルヘルスを得る権利があり、ジェンダーコミュニティは一致団結してこれに同意しています（96%）。

今こそ一致団結して行動すべき時であり、私たち全員が果たすべき役割を担っています。

クレジットおよび謝辞

本調査を実現するために、各自のネットワークで調査を

共有してくれた戦略的パートナーに感謝いたします：

コ・インパクト

ザ・フェミニン・クォーティエント

マインドフル・フィランソロフィー

ザ・スポットライト・イニシアティブ

国連財団

ウーマン・デリバー

本調査の参考となる組織調査にご協力いただいた300以上の

組織に感謝いたします。反対側のページには、クレジットの掲載

に同意していただいた組織のリストを掲載しました。

参考文献

- 1 国連女性機関. (2022). 持続可能な開発目標の進捗状況：ジェンダー・スナップショット 2022. <https://unstats.un.org/sdgs/gender-snapshot/2022/GenderSnapshot.pdf>
- 2 ソウルE、ティンズリーC、およびリヴォRP. (2017). グローバルバリューチェーンにおけるソーシャルエンタープライズ・リンク：新しいサプライヤーモデルのパフォーマンスと可能性. https://giwps.georgetown.edu/wp-content/uploads/2017/10/Social_Enterprise_Link_In_A_Global_Value_Chain_01.pdf
- 3 ザ・センター・フォー・ハイ・インパクト・フィランソロピー. (2017). XXファクター：女性と女の子の生活を改善するための包括的なフレームワーク.ペンシルベニア大学. <https://www.impact.upenn.edu/toolkits/the-xx-factor/>
- 8 ペンシルベニア大学 健康の公平と政策ラボ：系統的に不利な立場にある人口、地域、施設. <https://www.healthequityandpolicylab.com/underserved-populations-areas-and-facilities> (2023.5.30閲覧)
- 9 欧州ジェンダー平等機関. マージナル化されたグループ. https://eige.europa.eu/publications-resources/thesaurus/terms/1175?language_content_entity=en (2023.5.30閲覧)
- 10 世界保健機関 (2022). 世界の精神保健報告：すべての人のための精神保健の転換. ライセンス：CC BY-NC-SA 3.0 IGO. <https://www.who.int/publications/i/item/9789240049338>
- 11 世界保健機関、カルロス・クレンキアン財団 (2014). 精神保健の社会的決定要因. https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/106828/9241506809_eng.pdf
- 12 既出. ハイ・インパクト・フィランソロピー・センター
- 13 経済協力開発機構 (2022). ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための開発金融：概要. https://www.oecd.org/dac/Gender_ODA_2022.pdf
- 14 保健指標評価研究所 (2020). 世界の保健財源（開発援助の流れ：2020年の精神保健スクリーニング） <https://vizhub.healthdata.org/fgh/> (2023.5.30閲覧)
- 15 世界保健機関 (2022). 世界の精神保健報告：すべての人のための精神保健の転換. ジュネーブ. ライセンス：CC BY-NC-SA 3.0 IGO. <https://www.who.int/publications/i/item/9789240049338>
- 16 The Lancet (2018). Social determinants of mental disorders and the Sustainable Development Goals: a systematic review of reviews. https://haushofer.ne.su.se/publications/Lund_et_al_LancetPsychiatry_2018.pdf
- 17 <https://datahelpdesk.worldbank.org/knowledgebase/articles/906519-world-bank-country-and-lending-groups> にて閲覧可能
- 18 世界保健機関: <https://www.who.int/westernpacific/activities/promoting-mental-health> (2023.5.30閲覧).
- 19 メンタルヘルス財団 予防とメンタルヘルス. <https://www.mentalhealth.org.uk/explore-mental-health/a-z-topics/prevention-and-mental-health> (2023.5.30閲覧)
- 20 国連. 精神障害者及び精神保健に関する原則. <https://www.ohchr.org/en/instruments-mechanisms/instruments/principles-protection-persons-mental-illness-and-improvement> (2023.5.30閲覧).
- 21 デルロイト (2023). ウーマン@ワーク 2023: グローバルアウトlook. <https://www.deloitte.com/global/en/issues/work/content/women-at-work-global-outlook.html>
- 22 世界保健機関 (2021年). 包括的精神保健行動計画2013–2030. ジュネーブ. ライセンス：CC BY-NC-SA 3.0 IGO. <https://www.who.int/publications/i/item/9789240031029>
- 23 世界保健機関 (2021年). 統合型の、人中心の医療サービスの潜在的利益. ジュネーブ. <https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/274628/9789241514033-eng.pdf>

ウデュ・トゥギャザー・アス・ワン、キティルネ・コミュニティ・ベースド・オーガニゼーション、ビジョナリア・ネットワーク (USA) とそのシスターオーガニゼーション・ビジョナリア・ペルー (ペルー)、ブリティッシュコロンビア近隣会連合 (ANHBC)、ABAAD-リソースセンター・フォー・ジェンダー、レバノン・アフリカン・マインド・エンパワメント財団、アクセス・ユース・イニシアティブ・ウガンダ、DRCエンカレッジメントと貧困撲滅のための連帯 (SELP)、開発と社会進歩に取り組む若者 (ブワニ・ユース・ネットワーク)、西アフリカギニアのエイズ撲滅戦争 (FAAG)、レッド・アンブレラ・ファンド、パートナーズ・イン・ヘルス・リベリア、障害のある女性と子どものコミュニティ協会 (CAWCD)、オペレーション・スマイル、グラスウィング・インターナショナル、女性グループPag-La-Naam、ウィメン・ウィン、ポジティブ・ウィメンズ・ネットワーク・コラボレーション・オブ・ウーマン・イン・ディプロップメント (CWID)、ローズモンド・ガール・チャイルド財団 (RGCF)、エンリッチング・ライフ・イニシアティブ、バダボン・サンゴ、コンゴ開発のための行動計画協会 (PADCO)、ガーナ市民教育委員会 (NCCE)、ハー・ドリーム・イニシアチブ、センター・フォー・ウィメン・エンパワメント・イン・テクノロジー (CWE-TECH)、UNFPA国連人口基金、アムカ・アフリカ、ジャスティス・イニシアティブ、スライブ・ウォール、ガール・アップ、ディスカバー・ガラッド・リリーフ・アンド・デベロップメント、青少年統合開発国際センター (CYID)、ウスピンITコンセプト、ライジング・ユース・メンターシップイニシアティブ、ウィメン・アンド・チルドレン福祉開発組織、ユース・イニシアチブ・フォー・チェンジ・アンド・デベロップメント (YCD)、デンマーク労働組合(3F)、フリダ・カーロ財団、サブ・ラン・ソサエティ、ガール・エフェクト・ルワンダ、ユース・ボイス・フォー・チェンジ、世界人口基金 (DSW)、YMPAI財団、UNICEFプラットフォーム、ライラート、グローバル・ウィメン・イン・STEM Inc.：STEM分野のグローバル女性、ソロモン諸島家族計画協会、エル・ハナネ財団、デル・ノルテ女性、促進センター (CEPROMUN)、グッドバース・ネットワーク、YWCAハミルトン (ニュージーランド)、ウィメン・イン・ムーヴ、ファインド・ユア・アンカー、：アンカーを見つける、シャーマ民族女性信託、MUB - ホーム財団、性と生殖保健権同盟、セーフ・コミュニティ・ユース・イニシアチブ、A.R.T. フュージョン、ヤゲバナ、ル・エチオピア、慈善協会、レス・エッセンシャル、UKOOヒューマンライツ・ムーブメント：ビル・ドゥイノ-キルギスタン、バンカ・バイオルー・リミテッド、ホッグ精神保健財団、ポジティブ地方女性芸術センター(BMKK)、ナイジェリアHIV/エイズと共に生きる女性協会 (ASWHAN)、パリター、EMpower、新興市場財団、ジャスティス・アンド・プロスペリティ・フォー・オール、L.O.V.E.メンタリングプログラム、EDER (環境、開発、再生可能エネルギー)、アメリカ合衆国女性器 切除/割礼根絶ネットワーク、MCLDRリベリアInc.、ダイバーシティ・アンド・イクオリティ (LIPRIDE)、リベリアの権利、アイデンティティ、多様性、平等促進イニシアティブ(LIPRIDE)、国際女性センター、脆弱な立場にある人々のコミュニティ協会、フレンドシップベンチ、気候スマート農業青年ネットワーク (CSAYN)、ワンヘルスプラスインターナショナル、国際産婦人科連合 (FIGO) 第2部門メディカルサービス/ホスピタルシェア

PROSPIRA GLOBAL



戦略的
アドバイス



ソーシャル
インパクト



リサーチ



メンタルヘルス
評価

プロスピラグローバルは、世界中の企業、慈善家、投資家を支援し、より効果的でグローバルなメンタルヘルスソリューションの設計と実装を支援する、小規模メンタルヘルスコンサルティングファームです。

私たちは、知見とデータ、実体験、そしてユニークなグローバルネットワークを基盤として、世界的なメンタルヘルスへの取り組みを促進し、より効果的なものにする使命を掲げています。

prospira.global

“良好なメンタルヘルスと女性のエンパワーメントが相互に補強し合うものであることは、これまで以上に広く認識されるようになりました。

人々、企業、政府がこの関連性を理解すればするほど、世界中の女性の生活に根本的な変化をもたらし、女性が家族や地域社会、そして社会に貢献できる可能性を高めるものとなります。”

ヘレン・ハーマン、オリジン若者精神保健センター及びメルボルン大学教授

